（２６）　しゅんぎく

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 べと病 *Peronospora chrysanthemi-coronarii*	1.密植を避ける。 2.窒素過多を避ける。			
2 さび病 *Puccina cnici-oleracei* 白さび病	1.発病葉は早く除去する。 2.ハウス栽培では過湿にならないようにする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ジーファイン水和剤は白さび病に登録がある。	発病初期	M1･NC	(混)ジーファイン水和剤
3 萎凋病 *Fusarium oxysporum*	1.前年発生したところでは連作を避ける。 2.酸性土壌で発病しやすいので、土壌pHを矯正する。 3.発病株は早めに抜き取り、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法は指針Ⅲ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ －	ガスターード微粒剤 バスアミド微粒剤
4 炭疽病 *Colletotrichum chrysanthemi*	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.密植したり、過繁茂にならないようにする。 3.窒素過多にしない。 4.連作を避ける。 5.被害茎葉は集めて圃場外に持ち出し、処分する。 6.種子伝染のおそれがあるので、汚染圃場で採取された種子は使用しない。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アミスター２０フロアブルおよびストロビーフロアブルは、薬害を避けるため浸透性を高める効果のある展着剤を加用しない。	発生初期	11 11 11	ストロビーフロアブル アミスター２０フロアブル スクレアフロアブル
5 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.圃場周辺にシルバーテープをはる。 3.シルバーマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 3.アディオン乳剤は、ハクサイダニにも登録がある。	播種時 定植時 発生初期	4A 4A 3A 4A 4A 4A 4A	ダントツ粒剤 ベストガード粒剤 アディオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード粒剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤
6 マメハモグリバエ	1.外部から苗を購入する際には虫の有無を注意する。 2.被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 3.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 4.周囲の予備ハウス内の雑草処理を徹底する。 5.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 6.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 7.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し(夏場の晴天日であれば１日処理が目安)、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アファーム乳剤、アルバリン粒剤、スタークル粒剤、トリガード液剤はハモグリバエ類に登録がある。 2.カスケード乳剤は、ヨトウムシ、アザミウマ類にも登録がある。 3.アファーム乳剤は、シロイチモジヨトウ、アザミウマ類にも登録がある。	播種時または定植時 定植時 発生初期	4A 4A 4A 4A 6 14 15 17	アルバリン粒剤 スタークル粒剤 ベストガード粒剤 ベストガード粒剤 アファーム乳剤 エビセクト水和剤 カスケード乳剤 トリガード液剤

しゅんぎく

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
7 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.プレオフロアブルはシロイチモジヨトウにも登録がある。	発生初期	5 13 15 UN	ディアナＳＣ コテツフロアブル カスケード乳剤 プレオフロアブル
8 オオタバコガ	1.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	5	ディアナＳＣ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する